

公表	事業所における自己評価総括表
----	----------------

○事業所名	GreenApple大沢			
○保護者評価実施期間	令和7年 4月 10日		～	令和7年 4月 30日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	1	(回答者数)	1
○従業者評価実施期間	令和7年 4月 10日		～	令和7年 4月 30日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)		(回答者数)	
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年 5月 13日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	多機能型事業所であることや、同法人内で放課後等デイサービスを3事業所運営していることで、就学後のサービスへの移行がスムーズである。	お住まいの地域に合わせて移行先を提案しており、就学後も安定して通所ができるように法人内で連携をしている。	児童発達支援、放課後等デイサービス連絡会での情報共有を通して、保護者様のニーズに沿った移行先を提案できるようにしていく。
2	多機能型事業所であることで、放課後等デイサービスに移行した後も環境の変化が少なく、安心して過ごすことができる。	放課後等デイサービスの利用児童との交流の場を日常的に設けることで、見通しを持った状態でサービスの移行をすることができる。	サービス移行期の児童に対しては、定期的な活動体験を行うことで、集団参加への場を設けていく。
3			

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	個別療育が主であるため、小集団での活動やプログラムを提供できていない。	放課後等デイサービスの利用児童との年齢差の開きが大きく、小集団活動を行うことができない。	サービス移行期の児童に対しては、定期的な活動体験を行うことで、集団参加への場を設けていく。
2			
3			

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 GreenApple大沢

公表日 令和7年 5月 26日

利用児童数

1名

回収数

1名

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	1				
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	1				
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	1				
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	1				
適切 な 支 援 の 提 供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	1				
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	1				
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	1				
	8	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	1				
	9	児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	1				
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	1				
	11	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。		1			・公園やコミュニティーセンターの利用はしていますが、意図的な交流の場は設けておりません。
保 護 者 へ の 説 明 等	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	1				
	13	「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	1				
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。		1			・保護者様方のニーズを捉え、今後利用ご家族様全体へ向けた対応力向上につながる情報発信を検討してまいります。
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていますか。	1				
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	1				
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	1				
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。		1			・例年10月頃に保護者会を実施しているが、放課後等デイサービスの契約者数が大多数であるためか、児童発達支援ご利用の保護者の出席はなかった。今後は就学後の放課後等デイサービスの様子の紹介や、保護者同士の交流の場を積極的に設け、参加への促しをしていきたい。

	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	1					・苦情相談窓口を事業所管理者が務めておりますので、いつでもご相談ください。
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	1					・当日のスケジュールをホワイトボードで提示し、見通しがつくように工夫しております。また発達段階に合わせ、絵カード等の必要な伝達方法も用いて支援しております。
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	1					
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	1					
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	1					
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	1					
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	1					
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	1					
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	1					
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	1					
	29	事業所の支援に満足していますか。	1					

公表

事業所における自己評価結果

事業所名	GreenApple大沢		公表日		令和7年 5月 26日	
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	8			
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	8		児童発達支援も行う多機能型の事業所であるため、個別対応を行う職員・児童全体に支援を行う職員のバランスを加味しながら、適切な職員数の配置を行っている。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	5	2	建物構造上、施設内に段差が生じる箇所があるため、「段差注意」の注意喚起をしている。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	8			
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	8		気持ちのクールダウンが必要な場合や、個別対話・体調不良の際などに使用している。	
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	8		職員面談やミーティングを通して、振り返りと目標設定を行っている。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8		アンケートを実施し、結果を職員間で周知し、改善に努めている。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8		従業者向けアンケートの実施と、職員面談を行い、業務や支援にまつわる疑問や意見を聞き取り、改善につなげている。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		8		現在は第三者評価を行っていないが、今後は必要に応じて評価を依頼し、業務改善に繋げていく。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	8		年間計画に沿った内部研修の他、事例検討への取り組みや外部研修への参加も行っている。	
適切な支援の	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	8		令和7年2月にホームページに公表	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	8		面談に基づき、課題と要望を検討した上で計画を作成している。	
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	8		計画作成時には指導員から現状の様子や見立て等を聞き取り、児童の最善の利益を考慮した計画となるよう努めている。	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	7	1	計画の目標と支援の方向性を日々のミーティングにて共有をしている。	共有はされているが、スタッフ全員が実施できているとは言えない。 ⇒計画に沿った支援のプランを全職員に周知し、同一の支援が行うことができるように改善していく。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	8			
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	8		各目標の具体的な支援内容を記載し、支援上の留意点を定め設定している。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	8		児童の特性を考慮した活動が行えるよう、ミーティングにて立案している。	

提供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	8		季節ごとの工作や、児童の特性に合わせたプログラムを立案し、5領域に沿ったプログラムを週替わりで提供している。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	8			1対1の個別療育の支援体制であるため、個別支援計画では個別活動を主軸とした計画を作成している。 おやつ時には放課後等デイサービスの児童との交流の機会を設けている。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	8		個別支援担当スタッフから当日の提供する支援内容を報告し、共有している。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	8			
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	8		終了後の申し送りの他、支援記録に記載することで課題点や成長度の共有を行い、次回の支援での解決策や新たな支援プランを協議している。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	8		6か月ごとの保護者面談と児童のモニタリングを行い、ミーティングにて情報共有を行い、見直しをしている。	
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	8		管理者・児童発達支援管理者が主に参加している。	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	8		子ども家庭支援センターや訪問看護ステーション、学校等の関係機関と定期的な会議を実施している。	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	7	1	子ども発達センター主催の児童発達支援事業所連絡会に参加し、他の児童発達支援施設との情報共有を行っているが、現在利用している児童の通園先の幼稚園との情報共有は行っていない。	今後保護者からの要望があった際は、通園先の保育所等との情報共有を行っていく。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。		8		放課後等デイサービスへの移行時には、法人内の他事業所への情報共有を行っているが、学校への情報提供は行っていない。 今後保護者からの要望があった際は、随時対応をしていく。
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	8		子ども発達センター主催の児童発達支援事業所連絡会に参加し、情報交換の他、感染症予防等の研修に参加している。	
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。		8		公園やコミュニティーセンターの利用はしているが、意図的な交流の場は設けていない。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	8		連絡帳や引き渡し時にて情報共有を行い、共通理解を深めている。また必要に応じて電話相談も行っている。	
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。		8		今後は、利用ご家族全体へ向けた対応力向上につながる情報発信を検討していきたい。
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	8		契約面談時に説明を行っている。	

保護者への説明等	36	児童発達支援計画を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	8		面談時にはご家族の意向の聞き取りを行い、作成した計画に反映するように努めている。	
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	8			
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	8		定期的な面談の他、電話・メール・連絡帳等にて相談援助を行っている。	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。		8		例年10月頃に保護者会を実施しているが、放課後等デイサービスの契約者数が大多数であるため、児童発達支援ご利用の保護者の出席はなかった。 今後は就学後の放課後等デイサービスの様子の紹介や、保護者同士の交流の場を積極的に設け、参加への促しをしていきたい。
	40	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	8		苦情相談窓口（管理者）を設け、迅速に対応することを心掛けている。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	8		毎月通信を発行している。 また、ホームページ、インスタグラムでも活動の様子を定期的に発信している。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	8			
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	8		当日のスケジュールをホワイトボードで提示し、見通しがつくようにしている。また発達段階に合わせ、個別スケジュールや絵カード等の必要な伝達方法も用いている。	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	8		毎年ハロウィンの時期では近隣の店舗に協力をいただき、イベントを実施している。	
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	8		年2回の防災避難訓練や年間計画に沿った研修を通して周知している。保護者様へは、契約時に説明し、事業所内に保護者閲覧ファイルを設置している。	
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	8		年2回の防災避難訓練を実施。	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	8		契約時のアセスメントにて聞き取りを行っている。	
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	8		アセスメントシートにて保護者からの申し出により対応している。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	8		安全計画に沿った備蓄品の確認や災害時伝言ダイヤルの試用、避難経路の確認と訓練の実施をしている。また浸水ハザードマップに指定されているため、年1回の水害訓練も実施している。	
	50	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	8			
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	7	1		再発防止策はよく話し合っているが、ヒヤリハットの記録を頻発につける習慣がない。 ⇒ヒヤリハットの記録作成の基準を再確認し、再発防止に向けた方策を、より具体的に上げられるように改善していく。
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	8		入職時研修の他、年1回の内部研修と職員チェックシートを実施。	
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	8		法人内で身体拘束適正化検討委員会を開催し、3要件の再確認と解除に向けた取り組みを検討している。 現在、対象利用者は無し。	

公表	事業所における自己評価総括表
----	----------------

○事業所名	GreenApple大沢		
○保護者評価実施期間	令和7年 4月 10日	～	令和7年 4月 30日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	33	(回答者数) 23
○従業者評価実施期間	令和7年 4月 10日	～	令和7年 4月 30日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数) 8
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年 5月 13日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	プログラムの立案をチームで行っており、様々なプログラムや課外活動等のイベントを実施することができる。	活動が固定化しないように、職員会議で意見を出し合い、新たな活動や課外活動先の提案を行っている。	金銭の支払いや交通機関の自立など、年齢や生活自立に向けたねらいを設定していく。
2	毎月の通信のほか、Instagramやブログ等で活動内容を積極的に発信することができる。	日頃、参観の機会を設けることが難しいため、通信やブログ等にて、活動の様子をお伝えするようにしている。SNSにおいては、利用者やご家族だけでなく、地域の方や今後のご利用を検討されている方に事業所の雰囲気を知っていただけるよう、定期的な情報の更新を行っている。	土曜日・学校休業日の課外活動の様子を掲載することが多くなっているため、今後は平日の事業所での過ごしなども掲載していきたい。
3	保護者様からの希望を聞き取り、児童本人の課題を支援会議で捉えた上で、支援方法を確立・実施している。	毎日の支援の振り返りの他、対象者を定めた定期的な支援会議を開催することで、課題の一つひとつに対して具体的なアプローチ方法をチームで立案している。	現状は常勤職員が支援会議に参加しているが、職員全体で共通意識を持つために、非常勤職員も会議に参画できる機会を設定していく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	ヒヤリハット報告の作成・共有の回数が少ない。	アクシデントが起きた時には、支援の振り返りを行い、再発防止策について話し合っているのだが、ヒヤリハット報告書でなく、事業所内様式のための記録となることが多い。報告書が始末書・顛末書としての扱いと同等のイメージを持つ職員が多いことが要因として考えられる。	ヒヤリハット報告書が注意喚起、再発防止等、利用児童を守るために必要なことであることを再度確認する。
2	個別支援計画に沿った支援内容が、職員に共有ができていない。	全職員に個別支援計画の内容の共有はできているが、具体的な支援プランに対しての共有の機会が足りていない。支援会議へ参加した職員とできなかった職員の理解に差があり、後に伝えることはしているが、完全ではない。	個別支援計画の他に、支援会議録の閲覧チェックを強化し、日々の申し送り時に留意点を伝えることで、意識共有ができるように改善していく。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名		GreenApple大沢				公表日		令和7年5月26日			
		利用児童数				36名		回収数		23名	
	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応				
環境・ 体制 整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	17	4		2	①雨天時の男子が身体を動かせる場が広いとは言えないと感じる。 ②広くてきれいだと感じる。	①近隣のコミュニティセンターや公園での活動を平日にも取り入れることで、身体の発散ができるように今後も努めてまいります。			
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	19	1		3	①分からない事はメールで親切に教えて下さり、とてもありがたいです。 ②新しい先生なのかヘルプの先生なのか分からないことがある。 ③職員が退職した際に、とくに説明がないので現時点の職員がわからない。 ④他事業所からも応援の職員が来ているようで、ありがたいと感じる。	②説明が不足しており、申し訳ございませんでした。今後は入職した職員、応援職員の区別がつくように、自己紹介をさせていただきます。 ③現在は常勤職員4名、非常勤職員4名の職員体制となります。異動や離職を伴う際は、保護者様方にご挨拶をさせていただきます。			
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	21	2							
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	22	1							
適切 な 支 援 の 提 供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	22	1			全体のことをどうしたらこの子にならできるかを考えて下さり、さまざまな角度から試してみたりと、とても感謝しています。				
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	23								
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	22	1							
	8	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	21	2							
	9	放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	22			1	眼球運動や体幹運動、ストレッチなど遊びながら参加できる活動がほいほいです。	学年が上がることで来所時間が遅くなり、一斉活動が難しいため、帰りの会の時間（グロウイングプログラム）にて、お子様の課題に沿った活動ができるよう対応しております。それ以外でも可能な限り取り入れられるよう努めて参ります。			
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	21	2			週3回利用していますが、普段も長期休みもあまり活動が重なってないように感じます。				
保 護 者	11	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。	11	4	2	6					
	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	23								
	13	「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	22			1					
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	11	3	2	7	ペアレントトレーニングはやってほしいと感じる。	今後は、利用ご家族様全体へ向けた対応力向上につながる情報発信を検討してまいります。			
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達状況について共通理解ができていると思いますか。	23								
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	23				面談では細かいことまで伝えて下さり、言語化できなかった部分的確かな言葉で教えてくださり感謝しています。				
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	23				献身的なサービスをして下さると感じます。				

への説明等	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	8	5	2	8	①父母交流はできているが、きょうだい向けの交流は経験がない。 ②保護者会では経験談など情報共有ができました。	①毎年10月に保護者会を開催し保護者様同士の交流の場を設けておりますが、現在兄弟交流など支援の場は設けておりません。今後は兄弟が参加できる行事や情報提供などを検討してまいります。	
	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	20	2		1			
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	22				1		
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	20	1			2		
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	22				1		
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	18				5	契約したのが昔のため、細かいことは忘れてしまいました。	各マニュアルにつきましては、「保護者閲覧ファイル」にて、いつでも閲覧が可能です。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	15	2			6		毎年5月と11月に火災・地震の避難訓練を行っております。また大沢は水害の恐れがあるため、毎年6月に水害を想定した縦型避難訓練を実施しております。訓練の様子は毎月発行の通信やInstagram・ブログにて発信しております。
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	18				5		契約面談時の説明および、事業所内にて保護者閲覧ファイルを常時設置しております。
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	16	2			5		該当事案が発生した際には、迅速に児童及び保護者対応に取り組みます。
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	23						
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	20	3				①グリーンアップルだよと言うとニコニコして準備しています。 ②たまに通所を嫌がることもある。 ③本人の年齢にあった活動かどうか分からない。 ④GreenAppleに関する会話が多く、お友だちや先生の名前を言い、身近に感じているようです。	③小学生から高校生まで年齢層が様々であるため、活動内容に偏りが出ないように年齢・階層別に別途活動を設定するよう、更に工夫してまいります。
	29	事業所の支援に満足していますか。	23					宿題プリントを協力して下さったり、家ではできない点をサポートして下さいます。	

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		GreenApple大沢		公表日		令和7年 5月 26日	
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	8				
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	8		児童発達支援も行う多機能型の事業所であるため、個別対応を行う職員・児童全体に支援を行う職員のバランスを加味しながら、適切な職員数の配置を行っている。		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	5	2	建物構造上、施設内に段差が生じる箇所があるため、「段差注意」の注意喚起をしている。		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	8		学習スペースと活動スペースを区切る配置を行い、各々が集中して取り組めるように環境設定を行っている。		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	8		気持ちのクールダウンが必要な場合や、個別対話・体調不良の際などに使用している。		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	8		職員面談やミーティングを通して、振り返りと目標設定を行っている。		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8		アンケートを実施し、結果を職員間で周知し、改善に努めている。		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8		従業員向けアンケートの実施と、職員面談を行い、業務や支援にまつわる疑問や意見を聞き取り、改善につなげている。		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		8		現在は第三者評価を行っていないが、今後は必要に応じて評価を依頼し、業務改善に繋げていく。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	8		年間計画に沿った内部研修の他、事例検討への取り組みや外部研修への参加も行っている。		
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	8		令和7年2月にホームページに公表		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	8		各保護者様との定期的な面談に基づき、課題と要望を検討した上で計画を作成している。		
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	8		計画作成時には指導員から現状の様子や見立て等を聞き取り、児童の最善の利益を考慮した計画となるよう努めている。		
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	7	1	計画の目標と支援の方向性を日々のミーティングにて共有をしている。	・共有はされているが、スタッフ全員が実施できているとは言えない。 ⇒計画に沿った支援のプランを全職員に周知し、同一の支援が行うことができるように改善していく。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	8				

適切な支援の提供	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	8		各目標の具体的な支援内容を記載し、支援上の留意点を定め設定している。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	8		児童の特性を考慮した活動が行えるよう、ミーティング等で立案している。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	8		季節ごとの行事や課外活動、児童の特性に合わせたプログラムを立案し、帰りの会（グローイングプログラム）の時間に行っている。その他に、子ども会議から出た意見を元に、課外活動先の選定もしている。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	8		個別活動、集団活動の両方を取り組み、計画を作成している。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	8		当日のミーティングにて支援の留意事項や役割分担等の確認を行っている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	8		業務終了後に振り返りを行い、プログラムの支援記録を残している。また申し送りノートを活用し、情報共有を行っている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	8		終了後の申し送りの他、支援記録に記載することで課題点や成長度の共有を行い、次回の支援での解決策や新たな支援プランを協議している。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	8		6か月ごとの保護者面談と児童のモニタリングを行い、ミーティングにて情報共有を行い、見直しをしている。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	8			
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定を育てるための支援を行っているか。	8		自己決定が難しい利用者に対しては、選択肢を絞り少ない選択肢から選べるように声掛けの工夫を行っている。	
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	8		管理者・児童発達支援管理者が主に参加している。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	8		子ども家庭支援センターや訪問看護ステーション、学校等の関係機関と定期的な会議を実施している。	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	8		下校時間や行事予定等については、保護者様を通じて情報共有を行っている。その他、不登校傾向のある利用者に関しては、学校を含めた関係機関と連携をとり情報共有を行っている。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	7	1	子ども発達センター主催の児童発達支援事業所連絡会に参加し、必要に応じて就学前に利用していた児童発達支援施設との情報共有を行っている。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。		8		昨年度は2名が就労移行したが、希望がなかったため、移行時の情報提供は行っていない。今年度3名が移行予定のため、希望を踏まえて実施していきたい。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	8		子ども発達センター主催の児童発達支援事業所連絡会に参加し、情報交換の他、感染症予防等の研修に参加している。	
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	6	2	公園やコミュニティーセンターの利用はしているが、意図的な交流の場は設けていない。法人内の別事業所との合同活動を行うことで、他地域のこども同士での関わりの機会を設けている。	
33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	8		主に管理者・児童発達管理責任者が参加している。		

	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達状況や課題について共通理解を持っているか。	8		連絡帳や送迎時にて情報共有を行い、共通理解を深めている。また必要に応じて電話相談も行っている。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。		8		今後は、利用ご家族全体へ向けた対応力向上につながる情報発信を検討していきたい。
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	8		契約面談時に説明を行っている。	
	37	放課後等デイサービス計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	8		面談時にはご家族の意向の聞き取りを行い、作成した計画に反映するように努めている。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	8			
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	8		定期的な面談の他、電話・メール・連絡帳等にて相談援助を行っている。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	3	5	令和6年10月に保護者会を実施。支援内容や活動内容の紹介のほか、育児相談の時間を設け、学期に応じた各家庭ごとの課題を共有することができた。	兄弟交流を設ける支援は行っていないが、今後ニーズを捉えながら交流の場を検討していく。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	8		苦情相談窓口（管理者）を設け、迅速に対応することを心掛けている。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	8		毎月通信を発行している。また、ホームページ、インスタグラムでも活動の様子を定期的に発信している。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	8			
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	8		当日のスケジュールをホワイトボードで提示し、見通しがつくようにしている。また発達段階に合わせ、個別スケジュールや絵カード等の必要な伝達方法も用いている。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	8		毎年ハロウィンの時期では近隣の店舗に協力をいただき、イベントを実施している。	
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	8		年2回の防災避難訓練や年間計画に沿った研修を通して周知している。保護者様へは、契約時に説明し、事業所内に保護者閲覧ファイルを設置している。	
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	8		年2回の防災避難訓練を実施。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	8		契約時のアセスメントにて聞き取りを行っている。	
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	8		アセスメントシートにて保護者からの申し出により対応している。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	8		安全計画に沿った備蓄品の確認や災害時伝言ダイヤルの試用、避難経路の確認と訓練の実施をしている。また浸水ハザードマップに指定されているため、年1回の水害訓練も実施している。	
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	8			
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	7	1		再発防止策はよく話し合っているが、ヒヤリハットの記録を頻発につける習慣がない。⇒ヒヤリハットの記録作成の基準を再確認し、再発防止に向けた方策を、より具体的に上げられるように改善していく。

53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	8		入職時研修の他、年1回の内部研修とチェックシートを実施。	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	8		法人内で身体拘束適正化検討委員会を開催し、3要件の再確認と解除に向けた取り組みを検討している。 現在、対象利用者は無し。	